

ドローンロボット技術サービス産業創出事業 第1回事業評価結果

令和5年度第1回事業評価委員会を開催しました。

1. 目的

事業評価委員会は、外部の学識者等5名から構成されています。
専門的な立場から当該事業への意見、評価を求めることを目的としています。

事業評価委員

委員長	秀島栄三	教授	名古屋工業大学大学院
委員	村上 涼	ユニット長	名古屋商工会議所
委員	山下哲央	統括マネージャー	中部圏イノベーション推進機構
委員	片桐祐子	課長	中部経済産業局
委員	丹羽智裕	担当課長	愛知県
連携先	名古屋市		
事務局	(公財)名古屋産業振興公社		

(順不同敬称略)

2. 開催日時

第1回 令和5年6月28日(水)

3. 会議内容

本事業の計画等に対する評価、意見交換

4. 評価結果

第1回評価	評価基準	評価ポイント	評価
妥当性	事業計画	実施計画の内容・体制、スケジュール、 目論む結果・成果	A
	広報・相談	公開情報内容、申請希望事業者への事前 相談体制	A
	審査基準	機器導入申請の審査基準	S
総合			A

評価記号

S(想定を大きく超える)、A(想定以上である)、B(想定どおりであるが、
もう一工夫あると良い)、C(内容を見直し、次計画に修正案を活かす)

5. 事業への意見・助言

審査員からの助言・意見	審査員からの助言・意見への対応
<p>KPI の「新たなサービス創出件数」について、新規性あるサービスの創出に向けたサポート、フォローが、KPI 達成に向けて重要かと思う。</p>	<p>建物点検だけでなく、ドローンを活用した新ビジネスについての情報も発信し、進出の支援を行います。</p>
<p>応募予定数が少ないと予想される中、どのように KPI をクリアしていくのか。</p>	<p>3年事業として昨年度の補助事業者も含めフォロー・支援を行い、KPI 達成に向けて事業を進めます。</p>
<p>広報については、「事業申請が出来るのか？」と、相談があった事を考えると不十分であったと推測できるが、その要因分析まで実施出来ていると最終年度に繋げる事が可能ではないか。</p>	<p>事実確認等を行い、広報方法を見直して、来年度に繋げられるよう努めます。</p>
<p>本事業の応募数の向上、また、今後の民間事業者とのマッチングに向けて、一層の事業の PR 強化が必要、関連団体等との連携強化等を図りたい。</p>	<p>関連団体等との協力強化も含めて、一層の事業 PR 強化を図ります。</p>
<p>追加募集の検討にあたって、スクール等の教育供給側の状況を踏まえて、時期、方法等を考慮されると良いのではなか。</p>	<p>2次募集については、周辺状況を見ながら、名古屋市と相談し、検討を進めます。</p>